

内閣大務一第号 四日廿号

第一一八号

帝國議會、協賛ヲ經テ豫算外國庫、
負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要ス、件本年
三月六日、公布ニ依リ元印刷局ニ雇フテ利國
人上ドアルド、キヨソネ、二十六年度以降終身
恩給年金千圓支給可致ニ付テハ本人ハ該
年金支給、証書下付ヲ成テ此後及中條
也

明治二十六年四月廿四日

大藏大臣渡邊國武



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

元印刷局雇

伊太利國人

裏三等上トアルドキヨソネ

住新東京府麹町區平河町

五丁目十八番地

履歷書

明治勲章勲三等

以太利國勲章「シユヴァリエー、ド、ロルドル、デーゼン、モオリスエー、ラザール」
及ヒ「シユヴァリエー、ド、ロルドル、ドラ、クウロニス、チタリー」
「サクソン、ワイマル國勲章「オフヂエー、ド、ロルドル、ヂュ、フホコン、プラン」
以太利「ジエノワ」リゲスチカ美術大學校、同「ミラン」王立「ブレーラ」
美術大學校、同「ユルビン」美術大學校名譽員

彫刻師

以太利人

エドアルド、キヨソネ

一 西曆一千八百三十五年以太利國「ジエノワ」州「アレインゾ」ニ
生レ、本國ニ於テ美術修業

一 西曆一千八百六十四年ヨリ十ヶ年間獨逸國ニ在留夫
レヨリ一ヶ年間英吉利西國ニ在留同一千八百七十五年

日本帝國政府、招傭ニヨリ日本へ渡來同一千八百九十二年マテ御雇ニ相成居同年七月十四日滿期解雇

但シ御雇中、履歴ハ左ノ通

日本帝國政府御雇中ノ履歴

明治八年一月十三日

一本日ヨリ滿三十年間月給英貨百磅即日本通貨四百五拾四圓七拾壹錢八厘ニテ大藏省紙幣寮御雇トナル

明治九年五月三十日

一 足下當寮雇結約以來電氣彫刻機械、彫刻活版鑄造鋼鍍減金等ノ諸術教授方充分行屆候ヨリ技生職工等ニ至ルマテ技業進、進歩致シ地券狀烟草印紙并鑑札郵便切手等、如キ精良ノ品出來候ハ全ク足下大ニ御盡力ノ致ス所殊ニ是迄一日モ懈怠遲奉等無之實ニ感賞ノ至ニ

不堪候尚自今不相替懇篤ノ教授ヲ蒙リ且工場一般ノ奉事
ニ付尚心付ノ次第ハ不捨置テ示諭有之度謝辭旁併テ
及テ依頼候也

紙幣頭得能良介

明治九年十二月六日

一其評紙幣寮ノ招傭以來彫刻術教授方充分行届候ヨリ
傳習ノ者技業進ニ進步諸印紙切手等精良緻密ノ版面
出来致ニ殊ニ公債證書原版彫刻ニ付テハ當暑中以來休
暇ヲ廢ニ連日早出居殘ニテ盡力有之彫刻方抄取無程
出来可致運ニ有之趣深ク感賞ノ至ニ候依テ乍菲薄為慰勞

琥珀織意函差進候尚自今不相替懇篤ノ教授ヲ蒙リ工業
倍進抄擴張候様盡力有之度謝辭旁併テ及テ依頼候也

大藏卿

明治十年七月二十四日

一去ル明治八年烟草印紙原版彫刻始業以來多数ノ版面ヲ
製ニ是迄年々暑中休暇等相廢ニ本年ノ義モ至急ノ製
造事務有之暑中休暇勿論日曜ノ休暇ヲモ廢ニ非常勉勵
ノ次第感佩ニ不堪大藏卿ノ委曲申立候處殊ノ外感賞有
之別封金三百圓下賜相成候條受納有之度此段拙者ヨリ
及内達候也

紙幣局長得能良介

明治十年十一月十七日

一 紙幣局工場へ

天皇陛下臨幸ノ節拜謁被仰付錦織二卷下賜

明治十年十一月二十日

一 紙幣局工場へ

皇太后宮

皇后宮兩陛下行啟アリニ節謁見被仰付供御ノ御菓子ヲ賜ル

明治十年十二月十五日

一 其許義未明治十一年即西曆一千八百七十八年第一月十三日滿期ニ候處同年同月十四日ヨリ明治十四年即西曆一千八百八十一年第一月十三日マテ滿三ケ年間雇繼明治十一年即西曆一千八百七十八年第一月以降ハ月給日本貨幣四百六拾圓ト定メ通貨ヲ以テ可相渡其餘ハ總テ是迄相達置候命令書ノ條款遵奉可者之此段達候也

明治十一年一月二十日

紙幣局長得能良介

一 貴下實母本國ニ於テ大病ノ由萬里隔絶歸者モ不相叶定テ御憂苦ノ裁ト致推察候ニ付母公御慰諭ノ為工場一同ヨリ聊ナカラ金百圓差進御貴下ヨリ御禮送相

成後操致度此段得志候也

紙幣局長得能良介

明治十一年七月二十六日

一 客歲以來各種製造品源、輻輳工業甚多端ノ處今日迄
事業上一ノ困難ハ勿論無混滞相運殊ニ防廢ノ法充分相立
製造品精良ノ名譽ヲ顯シ次第全ク足下部中技手以下ノ
教導可方周密行届處刻術ヲシテ一層ノ進歩ヲ得セシメ且平常
日曜ノ休暇ハ勿論暑中休暇ヲモ相廢シ職務上致ニ勉勵候
功效ニ付大蔵卿ノ内聽ヲ経テ金五百圓慰勞トシテ下賜候條
此段拙者ヨリ及内達候也

紙幣局長得能良介

明治十二年四月二十二日

一 印刷局長右地巡回ノ同行ヲ命セラル

但シ同年五月一日出發同年九月十九日歸京

明治十二年十二月十六日

一 製造品源、輻輳工業甚多端ノ處平常日曜休暇ハ勿論暑
中休暇ヲモ相廢職務上致ニ勉勵教導可方周密行届技術上層
進歩ニ至リ候段畢竟篤志勉勵ノ致ル所ニシテ勤勞不欺候
ニ付大蔵卿ノ内聽ヲ経テ為慰勞金五百圓下賜候事

印刷局長得能良介

明治十三年六月十七日

一 明治勳章之勳四等ニ叙セラレ旭日小綬章ヲ賜ハル

明治十四年一月十四日

一 本日ヨリ明治十七年一月十四日ニテ滿三ヶ年間月給七百三十拾圓ヲ以テ御雇繼ニ相成ル

明治十五年十月二十日

一 今般石膏製模型百三十四箇御獻納相成御厚意ニ段深ク感佩致シ御右ハ永ク工場ニ保存シ貴下ノ厚意ト共ニ後世傳ヘ画學者ヲ誘導致シ御模範ニ相備可申御茲ニ短簡ヲ修メ感謝ノ情ヲ表シ候敬白

印刷局長得能良介

明治十六年一月十日

一 拜啟陳ハ先般工場必要ノ石膏製模形百三拾四個御獻納相成大藏御ニ於テモ御厚意ニ段甚ク滿之被致候茲ニ報酬ノ意ヲ表スル為メ新ニ花楓ノ花瓶一雙ヲ製シ貴下忠愛ノ精神ニ表スルノ數字ヲ鑄出シ致進呈御承ク御什藏有之候得ハ幸甚ク頓首

印刷局長得能良介

明治十七年一月十五日

一 本日ヨリ明治二十年一月十四日ニテ滿三ヶ年間御雇繼相成ル

明治十七年二月七日

一昨春來非常急成ヲ要スル製造品有之候處格別勉勵遂ニ
期限通り出來致シ且亦今般急施ノ製品ニ付格別盡力有之
候段甚満足致候條為慰勞別紙目錄ノ通下賜候事

大藏卿 松方正義

目錄

一七寶燒花瓶

壹對

一同卷烟草入

壹個

以上

明治十七年十二月二十三日

一當省印刷局ノ招傭以來該局事業上格別盡力殊ニ先般來
日本銀行券製造ニ付日夜黽勉竣工最モ技術ノ精巧ヲ
奏シ候段甚満足ニ存候條之為慰勞金貳百圓下賜候事

大藏卿 松方正義

明治十八年六月十一日

一昨年來鐵道公債證書并兌換銀行券調製方ニ付テハ施
政上頗ル速成ヲ要シ候處其意ヲ體シ非常ノ盡力ヲ以テ
成功ヲ得候段満足ニ存候條之為慰勞金貳百圓下賜候事

大藏卿 伯爵 松方正義

明治十九年六月十九日

一 今般貴下而移轉相成候に付乍此少者手當金貳百圓下賜條而落手有之度此段得貴意候頃首

印刷局事務長一川研三

明治十九年八月四日

一 明治十七年一月十五日下付ノ命令書第十四條ハ雇中宿料トシテ一ヶ月金三十圓宛支給スベシト改正ノ旨事務長ヨリ達セラル

明治二十年一月十五

一 本日ヨリ明治二十三年一月十四日まで満三ヶ年間月給金五百圓ニテ御雇繼ニ相成ル

明治二十年十二月十三日

一 事務勉勵ニ付為慰勞金三百圓下賜

大藏省

明治廿一年十二月十日

一 事務勉勵ニ付為慰勞金三百圓下賜

大藏省

明治廿二年五月十七日

一 謹啓然ハ今般貴下ノ厚意ヲ以テ當局ヘエレクトロダイナモ機械壹臺御寄贈被下收受致候右機械ノ儀ハ精巧ニシテ電氣製成技術の必須品ニ有之將來該機械ヲ利用シ工

業上ニ得ル處ノ裨益不尠義ト信認致シテ就テハ甚輕
微ノ品ニ依得共右厚意ヲ謝スル迄ニ別紙目錄ノ付具
進呈致度而受納被下得ハ幸甚、至馬坐依致具

印刷局事務長得能通昌

目錄

- 一 七寶燒花瓶 壹對
- 一 全 扁額 壹面
- 以上

明治廿二年十二月三日

一 事務勉勵ニ付為慰勞金三百圓下賜

大藏省

明治廿三年一月十五日

一本日ヨリ明治廿四年一月十四日滿一ケ年間而雇總ニ相成ル

明治廿三年六月三十日

一 當印刷局而就職以來貴下而彫鐫ニ係ル印刷品見本別紙
目錄ニ通而贈與並條而領收相成度依也

印刷局事務長得能通昌

見本印刷品目錄

- 一 新紙幣其他略ス
- 合計百八拾五枚

明治廿三年九月三十日

一 明治廿四年一月十五日ヨリ同年七月十四日マテ滿六ヶ月間而雇
繼ノ命令書ヲ受ク

明治廿三年十二月十六日

一 事務勉勵ノ付為慰勞金三百圓下賜

大藏省

明治廿四年七月六日

一 明治勲章ノ勲三等ニ叙セラレ瑞寶章ヲ賜ハル

明治廿四年七月十四日

一 本日而雇滿期解傭ニ相成ル

同年同月同日

一 貴下明治八年以來印刷局ニ奉職彫刻整版ノ技術ヲ擔
任シ十七ヶ年ノ長キ終始精勤一日ノ如ク且ツ同局技術
員ヲシテ現今之程度ニ發達スルヲ得ヤシメタルハ偏ニ
貴下薰陶ノ周密懇到ナルノ結果ニシテ深ク其勞ヲ謝ス
今般解約ニ臨ミ聊カ慰勞トシテ目錄之通晋贈儀條而領
掌者之度候也

大藏大臣伯爵松方正義

目錄

一金 叁千圓

一大和錦 武卷

同年同月同日

一印刷局印刷部彫刻課員ヨリ頌徳記并金製頌徳紀念章ヲ贈ラル其頌徳記即チ左ノ通り

明治廿四年七月我帝國印刷局沛雇彫刻教師伊國エドアルド、キヨソネ君約期方ニ滿矣嗚呼日月忽諸タリ指チ屈スレハ茲ニ十有七年此間水カラストセス而シテ君ノ勉勵ナル終始一日ノ如ク諄々怠ラス能ク後進ヲ誘掖シ歐州彫鐫ノ技術ヲシテ我帝國ニ發輝セシム其功實ニ多カラストセス故ニ我

皇帝陛下授ケラルニ瑞寶章ヲ以テシ勳三等ニ敘セララル豈ニ榮ナラスヤ而シテ生等久シク膝下ニ親ク積年ノ薰陶ヲ受ケ日夜淬励技術遂ニ今日ニ至ルヲ得タリ情義纏綿思ヒ此ニ至テ感荷何ソ堪ン言以テ酬ユヘカラス辭以テ盡スヘカラス乃チ相謀リ茲ニ頌徳ノ紀章ヲ贈呈シ聊以テ生等ノ微衷ヲ表ス頓首

内閣
恩給局
通第 一 號
五〇九

郵發第 八 八 号

日
五

恩給局

元傭外國人恩給ノ件

元遞信省傭英國人

勲四等ウイリアム・ベンチヤミン・ノーソン

右ノノーソンへ恩給支給ノ件廿四年

十月廿七日乾發第 一 五 〇 號

五年三月五日乾發第 一 五 號

及廿五年七月一日乾發第 五

〇 號ヲ以テ閣議稟請之上決

裁ヲ得帝國議會へ提出之處

甲 二 二

五

三

六

第四議會ニ於テ協賛ヲ經本年
三月六日公布之趣モ有之候ニ
付テハ明治二十六年年度以降
本人終身恩給年金五百圓
ヲ支給相成度別紙履歷書
相添此段稟請ス

明治廿六年五月六日

逓信大臣伯爵黒田清隆



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

履歷

英國人

勲四等

ウイリヤム、ベンヂヤミン、メーソン
William Benjamin Mason

千八百五十二年 二月生

明治七年十月廿二日

一工部省電信局一備八月俸百五拾円

一長崎電信局在勤

△八年十一月

一電信修技学校教師

一月俸貳百円ニ増給

公十一年三月

一長崎電信局、出張

公年七月

一長崎電信局在勤

一月俸貳百拾円ニ増給

公十八年十二月

一工部省ヲ廢シ逋信省ヲ置カレタル際其俸勤
續

公二十年八月

一東京電信學校教授兼工務局外國書記官ノ事
務取扱

一月俸貳百貳拾円ニ増給

公年十二月廿一日

一奏任ニ准シ取扱

公廿二年二月廿日

一月俸貳百五拾円ニ増給

公年七月廿四日

一大阪、出張

公廿三年九月十二日

一大臣官房第三課兼務

公廿四年三月十九日

一今回貴下ノ職ヲ解クニ当リ余ハ貴下ノ多年
勤勉職務ニ執掌セラレシ所為ニ対シ謝辞ヲ
陳、併セテ賞金貳千五百円ヲ給与ス

逋信大臣

公年公月三十日

一叙勲四等贈與瑞寶章
今年五月三十日
一解傭

明治廿六年五月一日

属士友忠良

審査官

大等
五十二

内閣書記官へ照会按

元印刷局雇伊太利国人エドワードキヨソネ終身
恩給修身ノ件ニ付参考ノ為メ明治廿四年八月
中大蔵者ヨリ進達状申候全人恩給ニ係ル
上申書以四分有之度候也

審査官

明治廿六年五月廿五日 属土所志良

審査官鑑

大蔵一號
五月廿五日

大蔵通信兩者へ照会按

元印刷局瀕伊太利國人エドワルド、キヨソネ
給證書下付ノ件、申牒ノ不本人氏名ノ原字
并生年月日不明ニ付、通牒有之度、此及
照会候也

審査官

大蔵大臣秘書官宛

大蔵一號
五月廿五日

元所省傭英國人ウイリヤム、ベンゲヤミン、メーソン

恩給支給ノ件由稟請ノ不本人ノ居住地利
然記載無之ニ付所通報有之度此及及法
照会候也

審査官

逓信大臣秘書官宛

子張水。未。通。考。女。行。言。
去。月。日。三。多。キ。ル。下。及。送。付。
原。書。見。大。甲。二。五。年。三。月。日。海。付。
乃。リ。千。九。百。一。十。年。三。月。日。
由。本。書。証。書。室。
因。給。付。申。書。

大 内 閣

内閣大書一號 尾二頁半

元印刻之長キコリネ生之月
并氏名ノ原字ニ列我ニシテ
有シク其長キアリトセ
乃此ニテ六ノ五ノ日ナリ

古本抄
古本抄
古本抄



田中圓經の官本抄

大藏省

Edoardo Chiossone

Né le mois de Février
du 1835.

西曆一千八百三十五年二月生

エドアルド、キヨソネ

大

蔵

卷

二

通三ノ一

音考

乾發第九七号

元當省傭英國人
 ノーソン居地ノ義守中照會
 趣了承右ハ東京市芝區芝
 公園内第^{十六号}七番ニ在リ
 段及中田各^在也
 明治六年五月五日

通信大臣秘書官松永武吉



恩給局審査官田口乾之殿



大蔵逓信兩大臣申牒元大蔵省傭伊
太利國人勲三等エドアルド、キヨソネ元
逓信省傭英吉利國人勲四等ウイリヤム、
ベンジヤミン、メーソン恩給年金給與ノ件

右謹テ奏ス

明治二十六年六月二十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大甲二五 通甲三官

内閣
恩給局 大第一號 合近奉一

明治廿六年六月七日

内閣總理大臣 伊藤 恩給局



外國人恩給給與ノ件

伊太利國人

東京府下居住

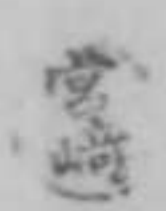
元大藏省傭

勲三等エドアルド、キヨソネ

恩給年額金千圓也

西曆千八百三十五年二月生

六月五日 日裁
月 日大藏省通牒
日進達 通牒



英國人

東京府下居住

元遞信省傭

勲四等ウイリヤム・ベンヂヤミン・ノーソン

西曆一千八百五十二年二月生

恩給年額金五百圓也

右ハ今般別紙ノ通大蔵遞信兩大臣ヨリ明治廿六年
度以降前記年金支給ノ證書下付方ノ儀申牒
ニ付證據書類等調査候處稟請ノ通何レモ
我政府ハ傭中功勞アルノ故ヲ以テ終身恩給給
與方去ル廿四年十一月中兩省ヨリ稟議ノ末帝國

議會ノ核賛ヲ經テ本年三月六日公布相成候
豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ要スル件
第三及第四ニ該當スルモノニ付兩省申牒ノ通
年金證書下付相成可然哉年金證書案及
其他ノ書類相添仰高裁候

大蔵遞信兩次官ノ通牒案

遞信省ハ割注
ノ如ク改ム

御省大臣ヨリ御申牒ノ元御省印刷局

印刷局ノ
三序ヲ除ク傭

伊太利

伊太利ヲ
英ト改ム

國人ニ下アルド、キヨソネ

ウイリヤム・ベンヂヤミン
ノーソント改ム

氏年金證書別紙ノ通發付相成候間本人ハ

渡方御取計有之度此段及御通牒候也

内閣書記官長

内閣書記官長

大藏 次官宛

遞信

追テ本人歸國ノ節ハ年金給與ノ定期ヨリ三ヶ月以前ニ東京府へ可届出旨本人へ御訓示有之度此段申添候也

大藏次官へ通牒案

左記ノ外國人年金證書武通及御回付候條

御記録濟ノ上早々御返戻有之度且年金支給方裏書ノ通御取計有之度此段及御通牒候也

明治廿七年七月廿七日

局長

追テ本人歸國ノ節ハ年金給與ノ定期ヨリ三ヶ月以前ニ東京府ヨリ又本人死亡ノ節ハ外務省若クハ東京府ヨリ御省へ直ニ報告ノ筈ニ有之候此段申添候也

伊太利國人 エドアルド、キヨソネ

英國人 ウィリアム、ベンチヤミン、ノーン

外務省へ訓令案

元大蔵省傭伊太利國人エドアルド、キヨソネ元遞信
省傭英國人ウイリヤム、ベンヂマミン、メーソンへ終
身恩給トシテ別紙寫ノ通年金下賜候ニ付
心得トシテ此段相達候且本人歸國後死亡ノ節
ハ速ニ内閣恩給局及大蔵省へ報告スヘシ

明治廿六年七月廿七日

東京府へ訓令案

元大蔵省傭伊太利國人エドアルド、キヨソネへ年

金千圓元遞信省傭英國人ウイリヤム、ベンヂマミン、
メーソンへ年金五百圓終身恩給トシテ別紙證
書寫ノ通下賜候ニ付本人歸國ノ儀届出候
節又ハ在留中死亡ノ節ハ内閣恩給局外務省
大蔵省へ通報スヘシ

明治廿六年七月廿七日

年金證書案

但從前
例ニ依ル

表書

年金給與證書

第七号
第八号

金千圓

一ヶ年ノ給額

金五百圓

同前

右ハ日本帝國ノ瑞寶章

第三等ヲ有スル伊太利國エドアルド、キヨ
第四等ヲ有スル英國ウイリヤム、ベンヂヤ、ミンヂ

ソネ氏日本政府ニ傭中勤勞ノ報酬トシテ氏ノ終身
之ヲ給與ス因テ此證書ヲ付與スルモノ也

明治二十六年 月 日

日本帝國政府

内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文

此證書ヲ調査シ日本政府年金本簿ニ登録ス

内閣恩給局長從四位勲四等井上廉

裏書

- 一 表書ノ年金ハ明治二十六年四月ヨリ起算スルモノトス
- 一 年金ハ毎年六月十二月ニ其前半ケ年分ノ金額ヲ給與ス但日本在留中ハ東京府歸國ノ後ハ在伊太利國日本領事館ニ於テ渡スヘシ
- 一 年金ヲ受領セントスル時ハ本人自ラ此證書ヲ其官廳ニ持參シテ表證スヘシ但一ケ年以上受領ラ急リタル時ハ其時間ノ金額ハ給與セズ
- 一 年金受領者ノ都合ニ由リ他ノ日本領事館ニ於テ受領セント欲スル時ハ其給與ノ定期ヨリ六ケ月以前ニ後前受領ノ官廳ニ請求ヲ為スヘシ
- 一 此年金ハ此證書受領者ノ一身ニ止ルモノトス故ニ若シ他人所持スル時ハ如何ナル事情アルモ無効トス

表書裏書トモ佛文譯ヲ掲載ス

参照

明治二十六年三月六日公布

豫算外国庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ要スル件

第三

元大蔵省傭外國人一名ニ明治二十六年年度以降終身恩
給年金千圓ヲ支給スルコトヲ得

第四

元逓信省傭外國人一名ニ明治二十六年年度以降終身恩
給年金五百圓ヲ支給スルコトヲ得

明治二十六年三月六日公布
内閣

明治四年公文類聚抄

十一月十一日

元印刷局雇伊国人エトワルド、キヨソネ及元遞信省
雇英国人ウサリアム、ベンジヤミン、メーソンへ年金
ヲ給与ス

大蔵省稟議 大甲四七

印刷局雇伊太利国人エトワルドキヨソネ儀本年七月
月十四日滿期解備致シ候度右ハ明治八年一月令局
工業創設ノ際特ニ本国ヨリ招聘シ尔来専ラ新式ノ
彫刻整版術ヲ以テ諸製造物ノ改良ヲ規畫シ遂ニ精
巧緻密ナル紙幣公債証券等ヲ製出シ始メテ防贋ノ
目的ヲ達シ世上ノ信用ヲ固ラスルヲ得タル儀ニ

有之其他諸般彫刻ノ術ハ一モ同人ノ手ヲ借ラサル
 ナク十六ヶ年余ノ久シキ誠意勤技術ニ著大ノ進
 歩ヲ興ヘ後進技師夫ヲ培養スルノ點ナカラズ又功
 績著明ナルモノニ有之候間特ニ前記ノ功績ニ對シ
 終為恩給トシテ年額金千貳百圓給与相取候様致度
 本圖徴ヲ請フ

明治廿四年十月廿八日

大藏大臣伯耆招方正毅

由閣總理大臣伯耆招方正毅

伊太利士人エドワルトキヨツネ

雇期 明治廿一年一月十四日ヨリ
 廿一年一月十三日迄 月給 英貨百ポント又テリリク
 廿一年一月十四日ヨリ 月給 英貨四百五十ポント又テリリク
 廿一年一月十三日迄 月給 日貨幣四百六十圓

雇後 廿一年一月十四日ヨリ 月給 日貨幣四百六十圓

左 廿四年一月十四日ヨリ 月給 日本紙幣七百圓於四

左 廿七年一月十四日ヨリ 月給 左前 十九年八月ヨリ宿拜

左 廿二年一月十四日ヨリ 月給 日本紙幣五百圓

全 廿三年一月十四日ヨリ 宿拜左前

全 廿四年一月十四日ヨリ 宿拜左前

全 廿五年一月十四日ヨリ 宿拜左前

全 廿六年一月十四日ヨリ 宿拜左前

指令

元印刷局雇伊國人エドワルトキヨツネ
 件請儀、由

明治廿四年十一月十一日

由閣總理大臣伯耆招方正毅

逕信省稟請

元傭外国人恩給ノ件

元逕信省傭

英國人

東京郵便逕信學校教授 逕信省局外國書記官
大臣官房秘書課勤務主任 坂

ウヰリアム・ベンディヤミン・ソーン

右メーソン儀ハ去ル明治七年十月ヲ以テ元工部省
ニ雇入レ長崎逕信局在勤ヲ命シ俸給年額千八百圓
ヲ給與シ同八年十一月俸給年額千五百圓ヲ增加シ電
信修技學校ニ轉勤セシメ技術教授ニ任事茲致全十
一年三月我電信局ニ於テ海外電報ヲ開設致候ニ際
之同人ヲ長崎逕信局ニ在勤セシムルノ必要ヲ生シ
同年八月俸給年額千五百圓拾圓ニ増加シ今局ニ

在勤高致同二十年ニ至リ東京電信學校ノ教育擴張
ノ必要ニ依リ同年八月同人ヲ同校教授兼本省工務
局外國書記官トシテ勤務左致更ニ俸給年額貳千六
百四十圓ヲ給與シ次テ二十二年三月亦俸給ヲ増加
シ年額三千圓ト爲シ東京郵便逕信局長教授兼本省
逕信局外國書記官トシテ勤務ノ外尚本省官房ニ出
頭執務高致勤勉任事務在候處本年三月中経費節減
上ノ事情ヲ以テ解雇シタル義ニ有之候以上叙陳致
候趣同人義ハ元工部省ニ於テ雇入以來本年三月當
省ニ於テ解雇候由實ニ十六年六月、又ニ十一月身
ヲ奉シテ勤勉精勵始終如一毫ニ其職任ヲ辱シメス
實務ニ任事シ其勤勞若大ノモノナルニ全ク経費節
減ノ爲メ不撓ニ解雇候義ニ付其奉減年數ト解雇ノ

事由トニ依リ査覈スルトキハ相當ノ恩給ヲ給與ス
至當ノモノト確認スルニ實モ恩給法ニハ雇外國
人ニ恩給ヲ給與スルノ規程ナキヲ以テ該法ニ依リ
恩給ヲ給與スルニト雖ハスト雖モ該法施行以前即
旧官吏恩給令施行中該令ニモ雇外國人ニ恩給ヲ給
與スルノ規程ナキモ雇外國人中同人ヨリ奉職年數
淺キモノニモテ特ニ恩給ヲ給與セラルタル先例モ
少ナカラサル義ニ付新恩給法施行後ノ今日ト雖モ
雇外國人ヲ使用スルノ必要アル以上ハ解雇後相當
ノ恩給ヲ給與スヘキハ徳義上至當ノ義ニシテ亦情
来ノ改更上ハ必要ノ義ト思考候ニ付同人等身恩給ト
ニテ毎年尾上百圓給與ノ件本年亦ニ期滿迄ハ提出
致度候條先以テ至急開議ニ於テ議念ハ提出ノ義決

先相成度係テ稟請ス

進テ本人義本年三月解雇ノ際實^此トシテ金貳千
五百圓ヲ給與セリ然ルニ切ハ賞^此ノ名義ヲ以テ
給與シタリト雖モ本人雇入ノ定額上解雇ハ六ヶ
月以前ニ報告シ且雇中相當ノ常料ヲ支給シ解
雇ノ節本國迄帰國旅費ヲ支給スヘキノ明文アリ
シモ先回解雇ノ件卒然ト起リ経費支出ノ都合
有之ニ依リ右定額上ノ明文廢棄ノ件申問タルニ
本人ニ於テ恩給ニタルヲ以テ六ヶ月分ノ俸給宿
料及帰國旅費ヲ標準トシテ算出ニタル屋敷ニ
付表面賞與ト雖モ其實定額上ノ結果ヲ履行シタ
ルニ過キササルモノニテ實際賞與又ハ恩給ノ性質
タルモノニ依リ候條本年考出際添申ス

明治廿四年十月廿七日

内閣總理大臣伯耆松方正義 啟

指令

元遞信省英國人ヨカリアル、ベンジヤミン、メーソ
ン年金給與、件請議ノ通

明治廿四年十一月十一日

内閣總理大臣伯耆松方正義

内閣書記官案

元印刷局雇伊太利國人エトワルド、キヨソネ及元遞信
省雇英國人ヲカリアル、ベンジヤミン、メーソン、畧給支

給、件大藏遞信兩大臣ヨリ請議相成候處右ハ例議
提出前縁ノ給與金類ニ付畧給局、意見ヲ徴セラレ
可然 廿四年十月廿七日

畧給局議案

別紙大藏遞信兩大臣ノ請議雇外國人エトワルド、キ
ヨソネ及ヨカリアル、ベンジヤミン、メーソン、畧給
ノ件ヲ案スルニ甲ハ俸給一ヶ月金五百圓即チ年額
金六千圓ニ付シ畧給年額金千貳百圓ヲ給シ乙ハ年
額金千圓ニ付シ畧給年額金六百圓ヲ給セントス
ルニ在リ右兩人ノ畧給年額ヲ俸給ニ比スルハ右
年俸額ノ五分ノ一ニ當ル之ヲ以テ雇外國人畧給
額ニ為比スルニ別列表ニ掲ケルカ如ク六名ノ中四

名ハ四分、一ニ名ハ六分、一ニシテ今四ノ二名ニ
 結スヘキ額五分、一ニ其中ヲ湯タルモノニ有之又
 傭年數ハ若十ハケ年余ニシテ之ヲ官吏昇給法ニ照
 査スルニ年數ニ於テハ最下限ノ十五年ヲ越ヘ金額
 ニ於テハ最下限ハ俸給ハ格別ノ最下限ヨリ一等ヲ下リ
 タルモノニシテ何レモ五當ナリト認め所也
 十一

在任中俸給格	人	名	奉仕年數	年俸額	年金額
在任中俸給格	英人	フレイザン、アーンマン	十七年	六千四百	千五百
在任中俸給格	白人	スチーヴン、トリン	十二年	四千八百	千二百
由向 俸	白人	アムステルダム、トリン	十五年	八千四百	千四百
大歳月俸	英人	ジョン、フレイザン、ラウダ	十六年	六千四百	千
西平省俸	白人	ジョン、マニス、ペーロス	十三年	四千三百	千五百

在任中俸	全	ヤルシール、ラズボーン	十七年	四千八百	八百
------	---	-------------	-----	------	----

内閣書記官俸案

別紙大歳大臣清議元印刷局雇伊太知国人エドワ
 ドキヨソノ年俸法典ノ件及逓信大臣清議元逓信省
 雇英国人ウヰリアム、ベンジヤミン、メーソン年俸
 此ノ件ヲ案スルニ右雇外国人等ハ孰レモ十ハケ年
 余日ハ政府ニ奉職シ其間功績不勤ヲ以テ五ヨソ
 ニハ年額金千貳百圓ヲメーソンニハ年額金千百圓
 ヲ支給セント云フニアリ右ハ兩人トモ功績著ルニ
 シモノニシテ其給與金額ノ如キモ給與局上申、如
 ヲ相當ナルヲ以テ西大臣清議ノ通、右年俸給與ノ
 一ニ決定相成ル年才二期議會ニ提出ニ依テテ

ヲレ可也哉 西曆一千九百零五年五月十二日

Table with 10 vertical columns and 10 horizontal rows, currently empty.

外受ニ號六月廿

送第一七五號

内閣訓令ヲ以テエドアルド、キヨソ子
及ウイリヤムベンヂヤミシ、ノトワシ、ハ今般終身
恩給下賜、以達ス、其了、承給、ハ
處該年、全給與證書、裏面、カ二項
ニ各本人、帰國、ノ後、ハ在其國、日本領
事館ニ於テ渡ス、ト記載ス、其了、得、兵
伊太利國、ニ於テ、ハ名譽領事、而、トシテ
未、我領事館、ノ設置、無、ク、實際、全
錢、ヲ取扱、言、吏、無、ク、右、ハ我、乙、使、館
ノ書、換、シ、ハ、無、ク、其、裁、為、念、此、以、一、應、及
以、問、合、也

明治三十二年八月四日

具、付、電、令、

ラレ可此致
酉年十一月十日
大森省八年
酉年十一月十日

外受二號
二月廿

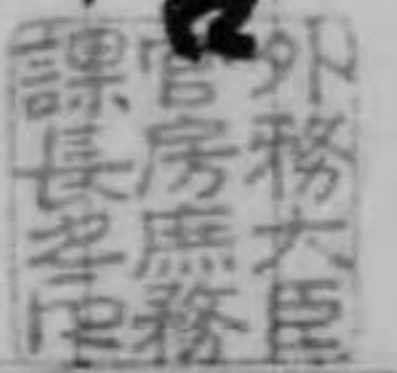
送第一七五

田閣訓令ヲ以テ
ワイリヤムベンヂヤ
ミニノトワシ
ノ今般終身
恩言下易ハ

付箋

今支分知
手紙
見送
見送

外務省
度務課長佐藤愛磨



内閣書記官

以中

別紙照會ニ付テハ左ノ通書回答相成可然存候此般申進候也

明治三十九年九月十四日

内閣恩給局



内閣書記官室

外務省度務課長ニ回答案

内閣訓令第ニ号ニ係ル伊太利國人エドアルドキヨソネ年金給
與証書裏面但書本文即本人帰國後年金渡方ノ件ニ
付今國ニ未ク本邦領事館ノ設置無之云々書問合ノ
趣了承領事館設置相成候迄ハ在全國我公使館
ニ於テ書取計有之度此般書回答旁申進也

明治二十六年九月十四日

内閣書記官

追テ本人ハ右ニ趣訓示致置候比段申添候也

大蔵大臣秘書官へ通知按

元海省印刷局雇受恩給者伊太利國人エドアルドキヨソネ帰國ノ后
年金渡方ノ儀年金証書裏書ニ同國領事館ニ於テ相渡候等
記載有之候處同國ニ未夕領事館ノ設置無之ニ付設置セラ
レ候迄在同國公使館ニ於テ年金渡方取計候等ニ付此旨
豫メ本人ヘ海訓示相成度此段申進候也

明治二十六年九月十四日

内閣書記官

持法傳者此。是法し

有る者本ヨリ不本國給

重之師しは書法者也

法教之重也。又法也

市名書と美しがふ

都令ふ此の文法也

在何處に法於下

法べし。此の法也

様。此の法也。此の法也

様之計成候事ニキヨソ
衣衣ハニハ後書事ニ在事ニ
領事候事ニ領事候事
實事ニ領事候事
後事ニ領事候事
領事候事ニ領事候事
領事候事ニ領事候事
領事候事ニ領事候事
領事候事ニ領事候事

江...
...
...

可...
...
...

致...
...
...

通...
...
...

事...
...
...

共...
...
...

在...
...
...

柳...
...
...